

地域の安全・安心を目指し 防災・防犯活動で連携

晃陽学園・盈科学園と学市連携協定を締結

2月9日、市と市内専門学校の学校法人晃陽学園および盈科学園(齋藤行信理事長)が、防災や防犯活動に関する連携協定を締結しました。

看護学科や救急救命学科、危機管理学科に在籍する学生が、市の防災訓練に参加したり、市民運動会等で救護・警備活動をしたりすることは、夢の実現に向けて将来の職業に対する意識を高めることができます。人材育成や地域社会の発展につなげることを目的に、地域の安全・安心を目指しています。

「古河はなももマラソン」では、毎年多くの教職員と学生が救護活動に協力していただいています。今回の締結により、地域防災活動の連携・協力関係がさらに深まることになりました。

古河市及び学校法人晃陽学園と学校法人盈科学園の学市連携に関する協定締結式



▲齋藤理事長(右)と協定を締結した菅谷市長



▲毎年多くの学生が「古河はなももマラソン」にボランティアとして参加し、救護班として活躍

一致団結 第1回古河市綱引大会



▲1チーム8人で競技時間は無制限。チームワークや忍耐力など精神面の戦いが見どころです

2月7日、古河はなもも体育館(中央運動公園総合体育館)で、第1回古河市綱引大会(市・第74回国民体育大会古河市準備委員会主催)が行われました。この大会は、平成31(2019)年の茨城国体で、古河市を会場に公開競技として行われる綱引競技の成功を祈念して開催されたものです。

当日は、市内の自治会・職場・学校などから22チームが参加。1本の綱にそれぞれの力を結集して競い合いました。

市では、今回の大会を市の綱引競技の幕開けとして、市綱引連盟の設立、茨城県綱引連盟の設立など、組織の設立を進めます。あわせて近県大会の開催など選手の育成にも力を注ぎ、「いきいき茨城ゆめ国体」では古河市の選手の活躍が期待されています。

ぜひ、市民の皆さんも大会の成功に協力をお願いします。